

令和7年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和7年7月28日（月）14:00～16:00

2 場 所 福知山公立大学 4号館4階会議室

3 出席者

委員	（リモート参加）青山委員長、大久保職務代理 （会場参加）菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、森下次長、妹尾係長、塩見主査、吉田職員
福知山公立 大学	川添学長、西田副学長、倉田副学長、池野学部長、倉本研究科長、山田教授、 河合准教授、畠中教授、辻事務局長、荻野次長、大江課長、小原課長、竹元 課長補佐、神代課長補佐、杉本主事

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 公立大学法人福知山公立大学 令和6年度業務の実績に係る 評価業務実績評価について	評価委員から公立大学法人への意見、質疑。

5 意見・質疑内容

（委員）

- まず、評価のポイントや評価の中で感じたことについて各委員からご意見をいただきたい。

（委員）

- 評価するにあたって再度実績報告書を読み、前回は申し上げた通り、各項目について高い問題意識を持っていることが分かった。
- それほど大きな規模の大学ではないにもかかわらず、教職員の皆様が協力して細やかに実績を積み上げられているということを再確認した。大学開学以来の課題である志願者数や、地元からの進学率などではまだ未達成なところがあったが、一番大切にされている地域連携では、これまでの積み上げられた実績の上にさらにいい取組みをされていることを評価している。
- この後の大学から意見、説明等を受けて、適切な評価をしていきたい。

（委員）

- 前回の委員会の時にも申し上げた通り、実績評価を読んでたくさんの事業、様々な取組みをされていることを再確認した。
- 報告実績の書き方の問題であると思うが、実績を書いていただく時にそれが何の目標のグループに属するものなのかを意識していただくと評価しやすくなると思う。例えば修学支援のことを質問したが、書かれている内容は、学生さんにとってどうい

う効果があったのかが読み取れなかったり、あるいは、地域資産とは何かというところことが実績に書いていないので読み取りにくかったりという事があった。学内の方々にとっては当たり前のことかもしれないが、これを市民の方が読んだ時に読み取れるのかという視点で意識しながら書いていただけると、次年度、より一層わかりやすい評価になると思う。

(委員)

- 大学側で作成された自己評価では、実績として特段マイナスになることは書かれていなかったと思う。
- 今回、未達成の項目はなかったわけなので、多くことに対して実績を積み上げられていることは大変評価できていると思う。
- 地元で大学があるというのは、市民としては大変大切な財産だと思う。地元からの進学者数とか地元での就職者数とか、いろいろな課題はあるが、着々と基盤・基礎を積み重ねてこられていると思う。実績を積み重ねることによって、地元の方が進学したいと思えるような大学にどんどん近づいているのではないかなと、期待したいと思いい評価をした。

(委員)

- 実績評価の説明が当初は非常に難しい言葉で書かれていて、評価に苦労した部分もあったが、こちらが慣れた部分もあると思うが、読み解きやすくなるように文章を細かく説明されている部分もあり、随分と分かりやすくなったと感じる。福知山市で、学生達が地域のために活動しているということが、身近に感じられる部分がたくさんあり、本当に福知山に住んでいる方は福知山公立大学の存在感の大きさを感じているのではないかなと思う。
- 地域に開かれた大学、そして福知山市内に公立大学があるという誇りというようなことも、日々、教員の方、学生の方たちが活動されていく中で浸透してきているのだなと実感した。
- 評価結果についてマイナス評価はなかった。今後とも頑張ってください、大学が発展していくことを願っている。

(委員)

- 他の委員と同様に地域連携が非常にきちんとできつつあると感じた。地域連携の中で、福知山モデルということが中期計画の中でもうたわれているが、福知山モデルというのは最初、イメージが難しいと思っていた部分もあった。しかし、それがなんとなく分かったように感じられた。
- 情報学部ができ、地域経営学部と二学部体制になったことが、どんなシナジーを生み出すか、非常に興味を持っていたが、情報学部と地域経営学部、あるいは大学院地域情報学研究科が、地域のいろんな課題に取り組んで、他大学の情報学部と違うなと感じた。情報学部と地域経営学部が非常にうまく融合しながら、いろんなことをやられているということが感じ取れ、いい相互刺激によりシナジーを生み出しているのではないかなと思った。
- 年度計画が実績に比して非常に簡単に書いてあると感じた。そして、年度計画の中に数値目標も入っていない。年度計画に数値目標を入れたくないという気持ちはわからなくはないが、年度計画の記載が薄いのに実績をたくさん書いて自己評価を4としているところが結構たくさん見受けられた。年度計画というよりも、やったことをきちんと評価しようという姿勢で臨んだが、年度計画に数値目標までは入れられなかったとしても、年度計画の中にもう少し書いていただいても良かったのではない

かと思う。もちろん、年度計画をやるのが大変だということは、我々評価委員会も分かっている。恣意的ではないと思うが、軽く年度計画で書いておいて、重く実績報告を書くというところがあり、実績と比べてきちんと書いてなかったところが散見された。次期中期計画では法改正による評価制度変更も控えているので、次回以降、年度計画の作り方は大学の皆さんできちんと考えていただきたい。

(法人)

⇒ 全部で35の質問をいただいたが、冒頭に5名の委員の方からそれぞれ発言があったように、基本的には非常に好意的に読んでくださっており、ありがたいことだと感じている。

35の質問については大学としての回答をしており、それ以上のことは申し上げることはない。委員のおっしゃっていることは計画の中身そのものが薄く書いてあったので、その結果から見ると実績の方がしっかり書いてあり、計画を上回っていると評価したものに関してもう少しきちんと根拠を示してくれということだと受け取った。それはある意味当然で、前回申し上げたように今回は2の自己評価はなく3と4ばかりだったので、4とした項目については委員の方々が本当に4に値するのかという点を気になさったことは十分理解する。年度計画をどのように記載するかという問題はなかなか難しいが、第3期中期目標期間については大きく変えざるを得ないという考えである。我々としては今回の実績報告について、よくわからないところがあれば、この機会にできる限り丁寧にご説明は申し上げることで自己評価の根拠を示すようにしたいと思っている。

年度計画番号44に関係する質問があったが、我々の実績報告書の記載に誤解を招く部分があったので、その点について説明をさせていただく。

(法人)

⇒年度計画番号44に対する実績報告として、元の文章の報告を読んでも「次年度は」ということが初めの方に書かれているが、アンダーラインのところについて申し上げると、今年度新たに生物資源開発ユニットを設置し、次年度は3Dプリンターやレーザーカッターなど先端技術を地域に還元する「Fab-Lab (ファブラボ) Fukushima for 北近畿ユニット」等2つを承認し、4月から活動を開始すると報告している。ところが「次年度は」という言葉が入っているために承認を行うのが次年度というように読めてしまい、次年度の報告を令和6年度に記載しているように見えて論理的におかしくなってしまう。このために大変ご迷惑をおかけした。お詫び申し上げる。もし許していただけるなら正誤表を発行し、この「次年度は」というのを削除することと、文の最後を「承認した。令和7年4月から活動を開始する。」と訂正させていただきたい。まずはお詫び申し上げる。

次に補足であるが、委員からご意見をいただいた計画策定の際に詳細まで記載できていないことについては、ここで説明すると長くなってしまうため、質問が出た都度ご説明する。記載できていないことにはいろんな事情があるが、1つの理由として当該年度にならないと委託が来ないということがある。受託する事業の予算額、あるいは、委託内容の詳細がわからないというものがあり、詳細まで予測して計画に書き込めなかったということである。

第3期中期計画をどうするのかということであるが、現在数量的な目標をちゃんと示せるようにデータ集めをやっており、第3期中期計画からは間違いなく定量的な指標をつけて年度計画を策定する準備を進めている。

(法人)

⇒まずお詫びを申し上げて、誤解を招く表現を改めさせていただきたい。質問番号で言うと21番に関わるものである。本学の方からは以上。

(委員)

- 資料1に委員の皆さんからの質問についての回答があるが、ここで確認しておきたい点はあるか。

(委員)

- 年度計画が漠然としていることについては私も同じ意見持っている。
- 第3期中期計画からはちゃんとやるということをおっしゃったが、年度の実績報告で明確に数字が出て、そこがよくできたと明示されているものを、評価4か3か判断をしようとした時に、例えば前年度の実績があってそれを並にするとか、全国の平均と比較するとか、何かターゲットになるような数字を大学の中では持っておられると思っている。そういう目標があり、いろんな事業を展開されていると思うので、全ては無理にしても、来年度の計画の中から定量的に数値を設定できるものがあれば、まず計画策定のときに検討いただきたいと思う。年度計画の是非について、我々が意見を述べる立場ではないが、実績報告の中に数字があり、そこに下線を引いて「これがよくできました」とされている部分について、どのような目標や数値に対してなのか戸惑うところがあった。
- アセスメントについて、PROGテスト等を実施され大学のGPAと比較されるなど、しっかりアセスメントをされているが、今のところ何か大きな指針は掴まれていると思うが継続されて何か見ればお考えを聞きたい。やはりGPA直接評価だけではなく外部の試験と照らし合わせることはとてもよいことである。
回答の中では関連性が見いだせていないということだったが、ぜひ継続される中で何らか見えてきて、それがカリキュラムの改善に資すると思ったので、継続をお願いしたい。
- 国際化について、円安もあり、学内では留学生の宿舎がないというご回答であるが、例えば、福知山市民の中でホストファミリーを募って、市民と国際交流を図るという切り口で、年間5人、できたら10人ぐらい受け入れる取組みをされてはどうか。同じことを都市部でやってもぼやけてしまうが、福知山市は先ほど他の委員おっしゃったように「我が町の大事な大学」という認知がされているので、チャレンジされてもいいかなと思った。希望的なことも含めて申し上げたが以上である。

(法人)

- ⇒ 1点目のご意見については、どこまでとは具体的に言えないが、第3期中期計画を先取りする形で可能な限り数値的目標を年度計画に書込みたいと思っている。
2点目のアセスメントについては、来年度から新しいカリキュラムを実施することになっており、そのカリキュラムが学生たちにとってどうであるかを考える必要があるので、アセスメントは継続するべきと思っている。
3点目の国際化についてはなかなか難しい面があるが、短期留学生については、最近も台湾の留学生を受け入れたところである。福知山市内にホストファミリーを継続してくれている家庭がいくつかある。自前で寮や宿舎を建てることはなかなか難しいが、条件整備をすることはやるべきであり、考えが全くないわけではないとお答えをさせていただきたい。

(法人)

- ⇒ 1点目の定量的な目標についての質問について、基本的には前年度並みを目標にはしている。具体的な例としては、計画番号45番をご覧くださいと、連携相談68件に対して52件を共同研究、受託研究、受託事業等への発展につなげたと報告しているが、一体何件を目指したらよいかということが実は読めていなかった。取組み始めてほしい3年であるが、今のところはこの実績で頭打ちかなと考えている。これまでは割に増えていたため、正直なところどこを目指していいかわからない。

もう一点例を挙げると、計画番号51番の北近畿コラボスペースというオンラインコミュニティを運営しているが、前年は参加者数がそれほど多くなかったが、どんどん伸びており、現在は多くの人数が参加している。今の時点で350人ほど登録しているが、思ったよりもずっとハイペースで伸びており、目標設定がなかなかできていないというのが正直なところである。

(委員)

- 2点教えていただきたい。項目番号17番であるが、年度計画が2つあり、最初の計画についてはメディア授業の指定がなかったということであるが、2つ目の計画についてはメディア授業や生成AIの活用の教育を令和8年度以降のことについて検討して、生成AIの活用については、リテラシー教育を主に令和7年度に検討することとしたとなっている。下地を整えたと読み取れたが、それでも3になっている理由を教えていただきたい。
- もう1点が、項目番号39について、海外の大学との共同シンポジウムを開催するという計画に対して、共同シンポジウムは開催がされなかったということであるが、質問の回答の中に、中国から受け入れたこととベトナムと台湾との包括的な学術交流協定の締結を行われて、共同シンポジウムを含む将来の交流の基盤を作ることができたということで、将来の交流の基盤を作ることができたことが評価3の根拠となっているのか、理由を教えていただきたい。

(法人)

⇒ 確かにメディア授業を実施するか、AIについての教育をどう活用するかについて十分な検討をやったとは言えないかもしれない。その点はさっきも申し上げた来年度からの新しいカリキュラムは相当頑張って作ったが、その中の具体的な授業のやり方としてのメディアの利用であるとか、AIの活用をどう織り込むかというようなことは、まだそこまでの議論ができていないことは確かである。

ただ、来年度からの教育の中身では、情報学を基盤にして、地域経営学の学生にも情報学の基本的な知識・スキルを身につけさせるというカリキュラムを組む構想の中で、あるいは汎用的学修能力の育成という教育目標の中で、AIをどう活用するかについては、リテラシーの教育をどうするかということを当然含みながら考えていきたいと思う。ただ、具体的なところまで及んでいないという意味では十分でなかったと言ふべきかもしれない。

2番目の国際シンポジウムの件は非常に単純な問題で、年度計画で開催すると言っていて実施しなかったから3はちょっと言い過ぎじゃなかという捉え方はあり得ると思うが、その準備となるような連携関係は深めたということで、年度計画の直接的な目標達成ではないが、達成に向けて間接的な努力をしたということで、3でいいのではないかという自己評価になる。

(法人)

⇒ 西南交通大学とのシンポジウムは実施されなかったが、西南交通大学との学術交流協定は更新しているので、将来にわたっての礎になると考えている。

(委員)

- 質問への回答書もしっかり書いていただいているが、例えば受託して何かやるというような項目についてはなかなか先が見えないものもあるが、こういった事業をやりたいかという頭出しぐらいは、ぜひ数字で具体的な目標や計画があればと思う。
- せっかく情報学部と地域経営学部で協力して様々なことを始めているのに、学部同士の話し合いができていない状態で年度計画を書いてしまったというところもあるのかもしれない。冒頭の皆さんのコメントの中にもあったが、福知山公立大学の地域の中での存在感が非常に増してきている中で、やはり年度計画もしっかり書いて

いただく必要があるのではないかなと思った次第である。

- 以上で福知山公立大学へのヒアリングを終了させていただき、本委員会の議題を終了する。